



令和7年度 REHELMプロジェクト概要

今治市サイクルシティ推進協議会

①リヘルムプロジェクトのVI制作

*詳細は別途VIマニュアルをご確認ください

本プロジェクトの最大のポイントは「取り組みをより多くの人々に理解してもらい・広げていく」こと。

廃棄されるヘルメットを集めて新たなモノに生まれ変わらせるという、前例のない取り組みをできるだけ分かりやすく、親しみある形に紐解きました。

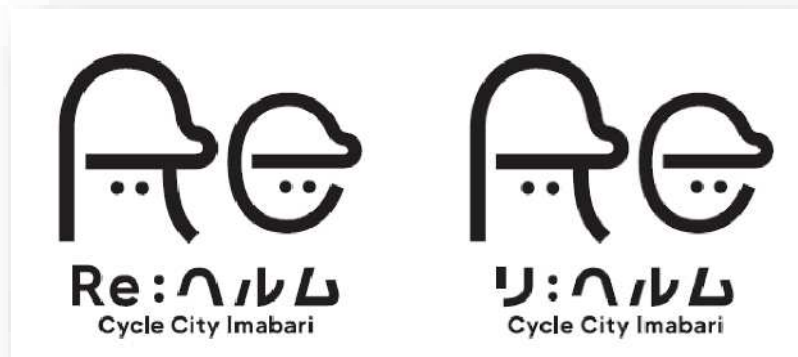
#プロジェクトを直感的に伝えるシンボルマーク



#単体でプロジェクト概要を説明するダイアグラム



#ターゲットの読解性にも配慮したカナ表記データ



#取り組みを広げていくための展開アイデアの検討



②廃棄ヘルメットのマテリアル化検証

*詳細は試作報告書A～Cをご確認ください

自転車用ヘルメットは、再生マテリアルとしてどれ程の利用可能性があるのか。メリットとデメリットは何なのか。

2026年度の実用化に向けて、まずは素材の特徴などを事前に理解するために「粉碎→板材化」の検証を数パターン行いました。



■概要

サイクリング用ヘルメット（外装PC、内装PS）から板材製作。

■素材・成形

自社規格品と同等の条件で製作可能だが気泡が多い。

■研磨・カット

規格品と同等の条件で対応可能。

■課題・知見

内装材のPSが発泡材の為、隙間が埋まりづらかったと考えられる。

■今後のご提案

気泡は塗装で埋めることも可能。PSは遠心分離である程度除去も可能。

①再生材としての強度

強度面では単一素材の方が望ましい(今回はPCとPSの複合素材)が、実用化に向けてはどのような素材をミックスさせるのか見当が必要。

②見た目(色合い)

ヘルメットの特性上PS(主に黒)の含有量が多いため、素材の色味もその要素に最も影響を受ける。①と併せて複合する素材の検討が必要。

③使用用途について

基本的にはプラスチック系素材は耐候性(紫外線からの影響)が低い。耐候性の高いプラスチック系素材(アクリルなど)もあるが、長期的な屋外での使用に関しては、利用方法や仕様含めて検討が必要。

③ヘルメット回収BOXの製作

*詳細は別途仕様図をご確認ください

BOXデザイン・制作のポイントは、VIデザイン同様「取り組みをより多くの人々に理解してもらい・広げていく」こと。

一般的なリサイクルBOXのようにデザインするのではなく、自ら回収に行く可動性と話題性、愛着を生む有機的なデザイン、展開性を意識しました。



*市民の皆さんの身近になるBOXの素材を木にすることで、「ウッドスタート」とも連動。

④PR動画に使用する映像素材の撮影

「今治・自転車・ヘルメット・学生・サイクル」など様々な要素をもつ本プロジェクトのPR動画に使用する素材の撮影監修。
リズムカルで明るく、直感的にプロジェクトの魅力を伝えるような最終的な映像のイメージを思い描きながら、撮影のディレクションを行いました。

